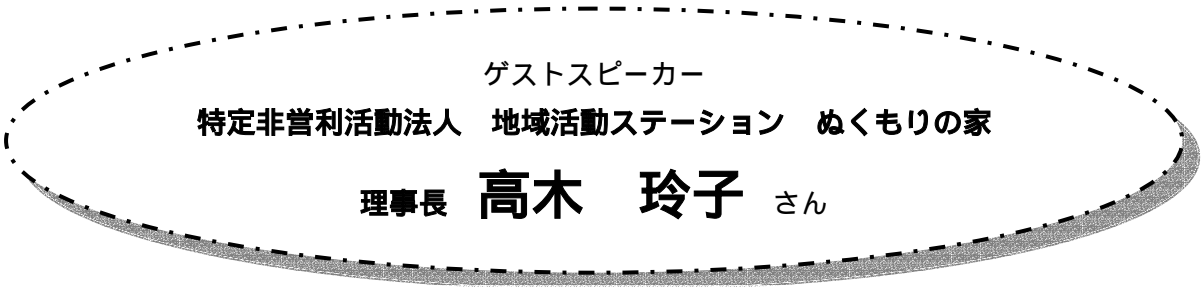




# 第 16 回 CLC 大阪サロンのお知らせ

## 「宅老所の実践から見える地域～今、共生を考える」



ゲストスピーカー

特定非営利活動法人 地域活動ステーション めくもりの家

理事長 **高木 玲子** さん

兵庫県川西市の閑静な住宅街、清和台地区で、今、新しい取り組みが始まろうとしています。「福祉デザインひろば」と名づけられたこの取り組みでは、地域のよろず相談窓口を開設し、お年寄り、障害のある人、子育てをしている人、子ども、そして学校や商店主たちが一緒になって、地域福祉を考えていこうとしています。そして、その福祉拠点の1つに、「宅老所めくもりの家」があります。

第16回 CLC 大阪サロンでは、「めくもりの家」の理事長、高木玲子さんをお招きします。開設から6年目を迎えた「めくもりの家」は、地域とどのように歩んできたのでしょうか。めくもりの家の活動、知的障害のある人たちの就労支援や、「福祉デザインひろば」に代表されるまちづくりについて、幅広くお話を伺います。今、何が必要とされているのか、地域住民として、一緒に学んでみませんか？

日 時：平成 16 年 6 月 28 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分

会 場：尼崎・小田地区会館 TEL：06-6488-2574

兵庫県尼崎市長洲本通 1-15-38（尼崎駅より南に徒歩 5 分）

参加費：会員 1,200 円 一般 1,500 円（会員価格は 1 会員様に対し 1 名様のみ有効です）

定 員：30 名（先着順・定員になり次第締め切ります）

申 込：TEL&FAX：06-6466-3740 e-mail：clc-osaka@clc-japan.com

なお、電話でのお問い合わせは月・木・金にお願いします。 担当：宇城（うじょう）

主 催：NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）大阪

全国コミュニティライフサポートセンター（略称 CLC）は、“誰もが地域で普通に”暮らせる地域社会を目指して 1999 年に発足した NPO です。2001 年 2 月に法人化した後も、子ども、障害者、高齢者分野を問わず新たな挑戦をしている全国の取り組みを紹介しながら各地でネットワークづくりを進めてきています。大阪事務所は 5 つ目の拠点となります。

申込者			
住 所	〒		
電話番号	( ) -	Fax 番号	( ) -
勤務先（所属）			
交流会 加後約 2 時間	出席・欠席（会費約 3000 円）	ご入会頂いている ものがあれば 印	JUNTOS 賛助 / 宅老所グループホーム全国ネットワーク 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 / CLC

## ぬくもりの家とは？

「ぬくもりの家のモットーは御利用者には笑顔を持って帰ってもらうこと」と話す高木さん。ぬくもりの家では、在宅で援助が必要な地域の高齢者、障害者、そしてそれらの家族や、そのほかケアを必要とされている方に対して、介護予防、生きがい作り、人材育成、研究・情報提供などを行っています。「御利用者には本当に必要なサービスを提供したい」という思いは、地域の人々との協力のもとに、身近でのコミュニティケアの組織化の必要性を実感。地域のニーズや底力を掘り起こしながら、地域のコーディネーター役として、誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを積極的に推進しています。

### キーワード1「地域一体」

「ぬくもりの家での活動は、地域の協力がなければありえません」と語る高木さん。地域行事にもスタッフや利用者とお出向き、「気が付けば輪の中心にいる」といいます。イベントやレクリエーションでは、地域の協力が、利用者の生きがいづくりになるといいます。地域のニーズと一緒に歩き続けるぬくもりの原点は、どうやら地域と一体となった良好な関係にあるようです。

### キーワード2「共生」

地域には、さまざまな人が住んでいます。お年寄り、障害者、子ども、大人・・・地域住民の誰もが、ちょっと困ったときに受け入れられる居場所作りが、全国各地で広がっています。川西市清和台地区では、地区をあげての共生の取り組みを始めます。いったいどんなことが始まるのでしょうか？一緒に学んでみましょう！

CLC 大阪サロンで『地域との共生』を一緒に考えてみませんか？

## 第15回 CLC 大阪サロンミニレポート

サロンの様子は CLC 刊行地域生活応援誌「JUNTOS」でもご紹介しています

「コミュニティワーカーのお仕事～さまざまな事例から」 講師：大阪市社会福祉協議会 竹村安子さん

報告者：兵庫県社会福祉協議会 荻田藍子

竹村さんの報告にはたくさん印象的な言葉がありました。「活動が気付きを生む。この気付きをサポートするのがコミュニティワーカー」「住民意識がわからなくなったワーカーは辞めなければならない」など。

徹底して住民主体にこだわりながら、かつ福祉課題をもつ人の視点でまちづくりをする、竹村さんの報告からは、コミュニティワークの奥の深さを改めて感じました。この奥の深さに面白さがあるんですね。

最後に、「社協であれ、施設であれ、社会福祉法人が、利用者とともに社会に向けて発信することを忘れて守りに入ると終わりだ」とおっしゃった言葉が強烈に印象に残りました。“社協は守りに入っていないか？”により“私の仕事は守りに入っていないか”たくさんの気づきが得られた会でした。

今月のこんなところで書籍案内

### 「地域生活応援誌 JUNTOS【ふんとす】VOL16～働くことを考える」

\*CLC 発行 / A4 版 / 72 ページ / 600 円(税込)

「特集：働くことを考える」では、知的障害のある人の就労の紹介として、介護現場（このゆびとーまれ / 富山県）福祉工場（C ネットふくい / 福井県）ベーカリー（寄稿 / 仙台市）と、いろいろな可能性を取材しました。また、同じ町の高齢者問題を考える取り組み（銀河ステーション / 熊本県）では、近所の高齢者の安否確認や、実態調査についての報告も掲載されています。（こちらの本は、サロン当日、会場でも販売しております）